

問1 東南アジア諸国連合 (ASEAN) に加盟するタイにおいて、輸出の中心が農産物から工業製品へと変化した背景と現状を説明した文として、最も適切なものを選択してください。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)

1. 外国企業の誘致や投資を受け入れて工業化を推進したことで、機械類や自動車の輸出割合が増加した。
2. 伝統的な農業を重視する政策に転換したことで、米や天然ゴムの輸出額が工業製品を上回るようになった。
3. 地下資源の枯渇により工業が衰退したため、現在は観光業と水産業が輸出の大部分を占めている。
4. 輸入代替工業化に失敗した結果、特定の農作物の栽培に依存するモノカルチャー経済へと逆戻りした。

問2 世界のアルミニウム産業に関する次の説明のうち、原料の産出と製品の生産動向について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2016年 茨城県公立入試 類似)

1. 原料であるボーキサイトの産出はオーストラリアやブラジルなどで盛んだが、製品の精錬においては、2000年代に中国が急速に生産量を伸ばし世界シェアの約4割を占めるに至った。
2. アルミニウムの原料は希少なため、2000年から2010年にかけて世界全体の生産量は減少しており、現在はリサイクルによる生産が主流となっている。
3. オーストラリアはボーキサイトの主要な産出国であるが、2000年代以降は中国での生産が減少したため、代わってアルミニウム精錬の全工程を自国内で行うようになった。
4. ボーキサイトは主に北米やヨーロッパで産出されており、それを安価な労働力が豊富な中国へ輸送してアルミニウムへと加工する国際分業が確立されている。

問3 ベトナムでは近年、急速な経済成長を遂げるために、特定の産業を優先的に支援する政策が進められています。この政策において、ベトナム政府が外国企業からの投資を呼び込むために行っている具体的な取り組みとして、最も適切なものはどれですか。 (2023年 宮城県公立入試 類似)

1. インフラが整備された工業団地を用意し、税金の免除などの優遇措置を講じることで投資を促す。
2. 国内の製造業を保護するために、外国企業の進出を厳しく制限し、輸入関税を大幅に引き上げる。
3. 自国の経済的自立を優先するため、外国からの投資を断り、食料自給率を高める農業の近代化のみで特化する。
4. すべての工業製品を国内資本のみで生産するよう義務付け、外国企業に対しては資金援助のみを求める。

問4 タイのチャオプラヤ川下流域やベトナムのメコン川デルタ地帯では、米の二期作が盛んに行われています。これらの地域で二期作を可能にしている、自然環境と社会基盤の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 大分県公立入試 類似)

1. 年間を通じた高い気温、季節風による豊富な降水量、およびかんがい施設の整備
2. 四季の変化に伴う明確な寒暖差、梅雨による長雨、および化学肥料の大量投入
3. 乾燥した気候、地下水路による水の確保、および大規模な農業機械の導入
4. 標高の高さによる冷涼な気候、緩やかな傾斜地、および棚田の造成

問5 2015年における中国の人口構成について、40歳代から50歳代の人口が厚い一方で、10歳代から20歳代の人口が少なく、出生率の低下が顕著に見られる背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 栃木県公立入試 類似)

1. 一人っ子政策の実施により、長期間にわたって強力な産児制限が行われてきたため
2. 経済特区の設置によって、周辺諸国へ若年層の労働力が大量に流出したため
3. 生産責任制の導入により、農村部で子供を労働力として必要としなくなったため
4. 西部大開発の影響で内陸部の高齢化が進み、国全体の出生率が引き下げられたため

問6 人口約3200万人を抱えるある国において、穀物自給率が約11パーセント、1人あたり国民総所得が約2万ドルという統計が見られます。この国の気候および社会経済的特徴について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2019年 愛知県公立入試 類似)

1. 砂漠気候が広がり農業には不向きだが、石油資源によって高い所得を得ている
2. 季節風の影響で降水量が多く農業が盛んであり、穀物自給率は非常に高い
3. 冷帯に位置し冬の寒さが厳しいため、工業化が進まず所得水準は低い
4. 地中海性気候を活かした果樹栽培が盛んで、農産物の輸出が経済を支えている

問7 アルミニウムの原料となる鉱産資源と、2000年から2010年にかけて世界全体のアルミニウム生産量に占める割合が約11%から約39%へと急増し、生産量も5倍以上に成長した国との組み合わせとして適切なものはどれか。 (2016年 茨城県公立入試 類似)

1. ボーキサイト - 中国
2. 鉄鉱石 - ブラジル
3. 銅鉱 - オーストラリア
4. ボーキサイト - インドネシア

問8 1949年にオランダから独立し、国民の8割以上がイスラム教徒である東南アジアの国について、その首都名と、20世紀後半に顕著になった人口動態の特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2022年 東京都公立入試 類似)

1. ジャカルタ - 第1位都市と第2位都市の人口差が約7倍にまで急拡大した
2. サンパウロ - 複数の大都市に人口が分散し、一極集中が緩和された
3. ニューヨーク - 計画的な都市開発により、周辺都市へ人口が流出した
4. マニラ - 徹底した家族計画により、都市部の人口増加が停止した

## 答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**  
**外国企業の誘致や投資を受け入れて工業化を推進したことで、機械類や自動車の輸出割合が増加した。**
- タイは、積極的に外国企業の投資を呼び込み、インフラを整備することで「アジアの工場」と呼ばれるまでの工業化を達成しました。この経済政策の転換により、かつての農業主体の経済から、機械類や自動車などを世界に供給する工業主体の経済へと発展を遂げました。その結果、輸出額の構成比においても、かつて主力だった農産物や資源に代わり、加工・組み立てによる工業製品が圧倒的なシェアを持つようになっていきます。
- 問2** **答え 1**  
**原料であるボーキサイトの産出はオーストラリアやブラジルなどで盛んだが、製品の精錬においては、2000年代に中国が急速に生産量を伸ばし世界シェアの約4割を占めるに至った。**
- アルミニウムの原料であるボーキサイトは、オーストラリアやブラジルといった国々が主要な産出国です。一方で、その精錬（アルミニウムの製造）については、21世紀に入ってから中国の生産規模が劇的に拡大しました。2010年時点の統計では、中国が世界のアルミニウム生産の39.3%を占めるなど、世界の産業構造に大きな変化が見られます。
- 問3** **答え 1**  
**インフラが整備された工業団地を用意し、税金の免除などの優遇措置を講じることで投資を促す。**
- ベトナムは1980年代後半からのドイモイ（刷新）政策により、市場経済の導入を進めました。政府は経済成長の柱として工業化を推進しており、外国資本を積極的に取り入れるために、道路や電力などのインフラを整えた「工業団地」を各地に建設しました。さらに、進出した企業に対して「税金の免除」などの優遇措置を与えることで、安価で良質な労働力を求める日本などの「外国企業」からの「投資」を大幅に増加させ、工業化を加速させています。
- 問4** **答え 1**  
**年間を通じた高い気温、季節風による豊富な降水量、およびかんがい施設の整備**
- 二期作を行うためには、作物の生育に適した高い気温が1年を通じて維持されていることや、季節風（モンスーン）の影響による豊富な雨、そして乾季でも農業用水を確保するためのかんがい施設の整備といった条件が必要です。東南アジアの低地ではこれらの条件が揃っているため、高い生産性を実現しています。
- 問5** **答え 1**  
**一人っ子政策の実施により、長期間にわたって強力な産児制限が行われてきたため**
- 中国では1979年から「一人っ子政策」と呼ばれる厳格な人口抑制策が実施されました。この政策により出生率が急速に低下したため、2015年時点の人口構成では、政策実施前に生まれた世代（40～50代）に比べて、それ以降に生まれた世代の人口が少なくなるという特徴的な形になりました。現在は労働力不足や少子高齢化への懸念から、この政策は廃止されています。
- 問6** **答え 1**  
**砂漠気候が広がり農業には不向きだが、石油資源によって高い所得を得ている**
- サウジアラビアの統計データは、厳しい自然環境（砂漠気候）と、それとは対照的な経済的な豊かさ（石油資源による高所得）を示しています。降水量がほとんどない環境では穀物生産が困難なため、自給率は1割程度にとどまります。一方で、石油資源の輸出によって1人あたりの国民総所得が約2万ドルに達しており、これは世界の平均的な水準と比較しても高い部類に入ります。
- 問7** **答え 1**  
**ボーキサイト — 中国**
- アルミニウムの原料はボーキサイトという鉱石です。2000年から2010年にかけて、中国は急速な工業化と経済成長を背景に、アルミニウムの生産量を2,430万tから4,120万t（世界計に対するシェアは11.5%から39.3%）へと飛躍的に増大させ、世界最大の生産国となりました。
- 問8** **答え 1**  
**ジャカルタ — 第1位都市と第2位都市の人口差が約7倍にまで急拡大した**
- インドネシアはかつてオランダの植民地であり、現在は世界最大のイスラム教徒人口を抱える国です。1950年時点では第1位都市と第2位都市の人口差は100万人以下でしたが、1990年にはその差が約7倍にまで広がり、首都ジャカルタへの圧倒的な人口集中が起こりました。